



## 参議院新議員会館

第22回参議院議員通常選挙投票日を10日後に控えた客年7月1日、参議院新議員会館の議員棟が完成し、山東昭子副議長（肩書きは当時、以下同じ。）はじめ大石尚子自治委員長、議院運営委員会の池口修次、羽田雄一郎、石井準一各理事の出席の下、新議員会館東エントランスロビーにおいて開館式が挙行されました。

参議院旧議員会館は建設後約40年が経過し、老朽化、狭隘化が進むとともに、近年急速に進展している高度情報化、バリアフリー化、地球環境対策等への対応にも困難を来していました。さらに建築基準法、消防法等各種法令の基準にも合致しない部分が増え、施設の維持管理運営上の障害など多くの問題に直面していました。その結果、参議院議員の政治活動、立法活動の拠点としての機能、役割を十分に果たし得ない状況となっていました。

平成11年12月の議院運営委員会理事会において、「議員室1室を100㎡とし、新築の方向で検討を進める」旨決定され、新議員会館整備の方針が固まりました。その後、16年11月の議運理事会においてPFI法に従った手続を進めることが確認され、17年度に事業者を選定、事業契約を締結しました。また、18年度から仮設施設の整備に着手しました。さらに、19年から新議員会館議員棟の建設に着手し、22年6月末に同施設の完成引渡しを受け、現在仮設駐車場と合わせてPFI事業者を中心とした維持管理・運営を行っています。

PFI方式とは、施設の設計・建設から維持管理運営までを一括して民間事業者が実施し、民間の資金・ノウハウを活用、財政資金の効率的な使用を目指すものです。事業者は、HOC議員会館PFI株式会社（落札者：鹿島建設・清水建設・大成建設グループ）で、事業契約金額は583億6,410万円余でありました。PFI事業としたことによる総事業費の削減率の見込みは契約時約24%となっています。

なお、事業の期間は、平成18年3月から平成32年3月末までの15年間となっています。

今後、旧議員会館及び仮庁舎の位置した箇所に地下駐車場を外構等とともに整備し、全体としては24年度に完工する予定です。また、地下鉄永田町駅に直接出入りできる通路を開通させることとしています。

約400台を収容できる駐車場の整備では、スムーズな管理運営の手法を検討するとともに、HV車、EV車に対応した充電設備の設置などを検討しています。また、敷地東側の国道246号線沿いの参議院・衆議院を通した歩行者空間を安全で快適な空間となるように参議院・衆議院の事務局間で整備内容の調整に努めています。さらに外構計画においては、環境や景観のほかメンテナビリティやエコマテリアルの検討などを通じて、樹木や舗石、舗装材の選定、照明計画、サイン計画など実施段階に向けて詳細な検討を行っています。

完工までは2年足らずの期間ですが、議員活動を支援することを第一に利用者が安全で快適に利用できるよう、また環境負荷低減など今日的な社会ニーズに対応した施設整備を図ってまいります。

こやの しんじ  
(小谷野 進辞・管理部新議員会館等整備室)